

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	甲状腺細胞診における分子生物学的診断マーカー開発に向けた基礎研究
	研究目的	甲状腺がんの1つである、甲状腺濾胞癌は、良性の腫瘍である濾胞腺腫と区別することが大変難しく、現在は、手術で切除した後に病理検査を詳細に実施して始めてがんか良性の腺腫かを判断しています。この研究では、ある特定の種類のマイクロ RNA と呼ばれる核酸を調べることで、濾胞癌と濾胞腺腫を手術する前に区別する診断ができるのではないかという仮説を立てて検証しています。このような診断法が確立できれば、良性の腫瘍で過剰な手術を受ける患者さんをなくすことができます。
	研究対象者	2007年～2019年8月までの間に神奈川県立がんセンターで、甲状腺濾胞がん、或いは濾胞性腫瘍の診断で手術を受けた患者さん
	研究期間	西暦 2019年10月9日～西暦 2023年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	宮城洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	乳腺内分泌外科、病理診断科、臨床研究所がん分子病態学部
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	大阪府立大学大学院生命環境科学 准教授・石橋 宰 東京大学医科学研究所抗体ワクチンセンター(兼)滋賀医科大学医学部 臨床腫瘍学 教授・醍醐弥太郎